



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

第三八一号

霜降

十月二十三日

ありわらのなりひら

## 在原業平とは

和歌の名手で、美男といえれば在原業平です。物語の登場人物のイメージがありますが、平安時代に生きた実在の人物です。今回、この業平に着目した特別展が明和町の斎宮歴史博物館で開かれています。

その名も「NARAHIRA」にしへの雅び男のものがたり」展です。会場にはさまざまな業平がいました。薄い藍色のはなだ色の狩衣姿は若かりし頃、官位が上がる壮年期は黒色の装束に変わっています。また、馬に乗って旅する姿は、東国へ向う「東下り」の場面を描いたものです。

在原業平は、平安時代の平城天皇を父方の祖父に、桓武天皇を母方の祖父に持つ高貴な血筋をもちます。家柄も良く、容姿に優れ、さらには和歌も上手い、あらゆるものを備えていた業平は、誰からも好かれ、女性とは多くの恋愛を、男性とも友情を大切にしていたようです。そのため、「昔男ありけり」と『伊勢物語』のモデルとして描かれたといえます。

会場で目を引くのはきらびやかな『伊勢物語図屏風』(江戸時代)。斎宮歴史博物館、国文学研究資料館、出光美術館がそれぞれ所蔵する三種類の屏風を並べて展示しています。私が拝見したのは前期展示の右側の部分ですが、「東下り」の場面が富士山を中心に描かれています。平安時代の歌物語『伊勢物語』は、雅やかな都の様子だけでなく、雅な主人公が東国へ下ることから、江戸の人々にも親しみやすく、人気が高かったようです。そのため、伊勢物語を題材にした江戸時代製作の工芸品のほとんどが、「東下り」の場面になっています。

斎王とのロマンスも描かれた在原業平。私たちは史実から発展した物語のイメージのなかで、この人物をとらえていることがわかります。十一月二十日まで。十一月三、四、五日は午後五時から七時半まで館内エントランスホールでプロジェクトジョンマッピングと夜間観覧。どんな業平に会えるのでしょうか。

文 千種清美



# おかげの里便り

## おかげ横丁

### ○『第20回 神恩感謝日本太鼓祭』

日本人は古来、太鼓を打つことで、暮らしの息災と豊穡を神様にお祈りしてきました。私たちは、その伝統と精神を受け継いで、太鼓のお祭りを神宮の神様に奉納します。全国各地から集まった太鼓打ちが、日本人のこころのふるさと伊勢の地にて、感謝と畏敬の想い、そして日々の鍛錬にて高めた技で打ち込みます。

日 時／11月12日(土)、13日(日) 10:00～17:00

場 所／おかげ横丁「太鼓櫓」、五十鈴川河川敷特設舞台

※諸事情により一部変更もしくは中止する場合があります。

出 演／糸島二丈絆太鼓(福岡県)、江戸雛子 若山社中(東京都)、  
大阪高等学校和太鼓部「笑龍」(大阪府)、熊野鬼城太鼓(三重県)、  
御陣乗太鼓保存会(石川県)、神恩太鼓(三重県)、大太坊(長野県)、  
焔太鼓ユニット(石川県)、舞太鼓あすか組(奈良県)、  
まといの会(愛知県)、和太鼓会 和光太鼓(埼玉県) <五十音順>

### ● 太鼓巡行

大太鼓の山車がおはらい町通りを練り歩きます。

揃いの法被を着て行きは勇壮に、帰りは賑やかに太鼓を打ち鳴らします。

日 時／11月12日(土) 12:30～、14:30～ 13日(日) 9:55～、15:00～

場 所／おはらい町通り

出 演／江戸雛子 若山社中、神恩太鼓

### ● ワークショップ

「ミニ太鼓作り」協 力／(株)浅野太鼓楽器店

オリジナル太鼓を作っていただける体験教室です。

木の胴に革を張る、ミニ太鼓とは思えない本格派の太鼓です。(両日とも先着20名※有料)

日 時／11月12日(土)、13日(日) 12:30～14:00(当日10:00～受付、所要時間約90分)

場 所／横丁棋院

「はじまりの森 太鼓のお話と木育体験」協 力／(株)宮本卯之助商店

音楽を奏でる太鼓となった森の木について学び、触れてみましょう。

木工体験では自分だけのへらを作って赤福餅を食べてみましょう。

日 時／11月12日(土) 11:00～12:00、13日(日) 12:00～13:00(各回8名※有料)

場 所／かみしばい広場横

## 五十鈴塾

### ○『伊勢西国三十三所巡り～もう一つのお伊勢参り⑥～』

三十三所も6回目いよいよ北勢地方のお寺です。29番聖寶寺がいなべ市藤原町にあります。比叡山延暦寺を開いた最澄によって平安初期に開かれた寺で信長軍によって焼かれて以来、紆余曲折の末に再興されました。今に残る庭園は平安時代の作庭の名残りが色濃く残っており、紅葉の美しさと相まって秋にはたくさんの方が訪れます。

30番桑名市の安渡寺、31番勸学寺、32番飛鳥寺、33番多度観音堂そして番外の大福田寺は桑名の聖天さんといわれ、大聖歡喜天尊を祀ります。これはあの松平定信の念持仏であったものと言われ日本三大歡喜天のひとつです。開基は聖徳太子と伝わる古いお寺で御本尊の阿弥陀如来は県の文化財。お参りの人たちがびっくりするのは三面大福、大黒天、毘沙門天、弁財天のお顔が三面についていて、願いを書いた紙を人に知られないように袋に入れると叶うそうで人気があります。

それぞれに歴史のあるお寺のお話です。

日 時／11月4日(金) 13:30～15:00

講 師／千種 清美(文筆家・皇學館大学非常勤講師)

参加費／一般 1,400円 会員 900円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

## 五十鈴茶屋

### ○『節気菓子』

やま にしき  
山の錦

五十鈴川の上流に位置する神路山は、初秋の影を残しつつ、錦おりなす頃となりました。三色の銘の茶巾しぼりでその美しさを愉めました。

かしこじま ゆうば  
賢島の夕映え

英虞湾が黄金色に染まる夕映えの賢島。羊羹とそぼろ餡を交互に流して仕上げ、その一刻を菓子にとどめました。

はつ しも  
初 霜

朝晩の空気が冷たく感じられ、伊勢路にも霜の降り始める時季がめぐってきました。小豆餡のそぼろ生地で黒糖餡を包み蒸し上げ、初霜の降りた大地を表現しました。